

Hem21

財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構ニュース

ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute の略称「Hem21」を
シンボルマークとあわせてロゴマークとしています

CONTENTS

- 21世紀文明研究シンポジウム
開催結果…………… 1
- 若手研究会開催結果…………… 2
- 能登半島地震の現地調査報告…………… 3
- ひと未来館企画展…………… 4
- 19年度の事業概要…………… 4
- こころのケアシリーズ2…………… 5
- HAT神戸掲示板…………… 5
- 「21世紀ひょうご」第2号案内…………… 6
- 「減災」第2号案内…………… 6

21世紀文明 研究シンポジウムを開催

学術交流本部

当機構の研究成果やHAT神戸に集積する国際関係機関等、知的ネットワークの総力を地域へ還元することを目的に、平成19年2月9日(金)に「21世紀文明研究シンポジウム」を独立行政法人国際協力機構(JICA)のご協力の下、汎太平洋フォーラムとの共催によりJICA兵庫国際センターで開催しました。

シンポジウムでは「平和の技術(人間の安全保障、多文化共生)」をテーマに、約150人が参加しました。

主催者である当機構の貝原理事長より、本シンポジウムの趣旨とテーマである「平和の技術」の理念と重要性についての紹介がありました。

続いて、JICAの黒木雅文理事から「平和の技術とJICAについて」の演題で基調講演がおこなわれ、JICAの基本理念である「人間の安全保障」と平和の技術の分野におけるJICAの様々な活動状況について、特に兵庫県とJICAが連携してきた状況や成果についての講演がありました。



分科会

続いて行った防災、保健医療、経済都市問題、多文化共生の4つの分科会では、それぞれの分野でインドネシアや韓国を中心としたアジアと日本との間の協力に係る枠組みのあり方について、参加者を交えた討議がなされました。

また、その討議結果を基に、各分科会代表とインドネシアからの4名の有識者をパネリストとして、須藤健一教授(汎太平洋フォーラム理事長)のコーディネートでパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、各分野での人材育成等について意見交換が行われた後、参加者の賛同を得て、これらの分野における行動計画「平和の技術に関する兵庫アクションプログラム」を提案しました。



パネルディスカッション

平和の技術に関する 兵庫アクションプログラム(骨子)

兵庫地域、アジア地域の大学、研究・教育機関、自治体、NGO、NPO等に対し以下の平和の技術にかかわる諸問題につき協働で教育研究活動を行うことを呼びかける。

- 防災、危機管理、緊急支援活動等に関する国際協力(防災分野)
- すべての世界市民が健康で人間らしく生きることができる肉体的、精神的、社会福祉的(ヒューマンケア)実現のための方策(保健医療分野)
- 人間の安全保障、持続可能な発展を重視する開発路線への転換策としての地域の人々が自律した循環経済の創造とそれを支えるガバナンスの構築(経済・都市問題(まちづくり)分野)
- 近年とみに急増しつつある国際間の人間の移動がもたらす異文化間の摩擦や教育、医療、労働、人権等人間の安全保障上の問題及びその解決策(多文化共生分野)

分科会代表者

- 浅野壽夫教授(神戸学院大学学際教育機構防災・社会貢献ユニット)
- 森口育子教授(兵庫県立大学地域ケア開発研究所)
- 小林郁雄教授(神戸山手大学人文学部、人と防災未来センター上級研究員)
- 岡田浩樹助教授(神戸大学国際文化学部、当機構研究部主任研究員)

パネリスト

- スプラウト・シスオスカルト(インドネシア・ガジャマダ大学・工学部講師)
- アヒル・ヤニ(インドネシア看護協会会長)
- スナルティニー・ハプサラ(インドネシア・ガジャマダ大学医学部看護学科長)
- ヌズール・アチャヤ(インドネシア大学大学院経済学部教授)

若手研究員が異分野間の研究会をスタート

研究調査本部

研究調査本部では、「安全・安心なまちづくり」、「共生社会の実現」を課題に、昨年9月から17のテーマにより研究調査活動を開始し、すでに多くの研究成果が生まれようとしています。

この間、各研究所の若手研究員間で異分野の研究を互いに学び合おうという機運が盛り上がり、4月13日、こうした若手研究員を中心とした研究会を開催しました。研究会では、外部の若手研究員も招へいして、当機構研究員とあわせて2名がそれぞれの専門分野の報告をする形で進められ、活発な議論を行いました。



冒頭に、五百旗頭真研究調査本部長が、「よい研究を行うには『書くこと』に加えて『議論すること』が重要だ」と強調。「分野の異なる研究員の報告を聞くことは、自分の分野をさらに深く掘り下げようとする刺激になるし、広く関連分野をこなせる力にもなっていく。研究員同士が遠慮なく議論しあい、それが上昇気流となって渦巻きができればうれしい」と研究員を激励しました。



二階堂 裕子 主任研究員

第1回目の今回は、まず、少子・家庭政策研究所の二階堂裕子主任研究員から、「民族的な多様性を活かしたコミュニティの活性化—大阪市生野区を事例に—」というテーマで、生野区のコリアタウンを事例に、民族の多様性が活かされるための条件を考察する報告がありました。参加者からは、「多文化共生を受け入れるようになった日本社会全体の認識枠組みの変化との関係にも注目してみてもいいのではないか」、「多様性を認める社会は、果たして多様性を認めない人々をどこまで受け入れられるのか」といった本質的な質問が出され、議論を行いました。

次に、外部報告者としてお越しいただいた、防災科学技術研究所・防災システム研究センターの永松伸吾研究員からは、「災害と経済システム」というテーマで、阪神・淡路大震災と中越地震（特に小千谷市）を事例に災害が経済に与える影響について報告がありました。これに対して、「誰が被災直後の地域経済をガバナンスするのか」、「阪神・淡路大震災では、地域資源を活用して災害対応を行った小千谷市のような事例はなかったのか」などの質問があり、政策指向的な議論が交わされました。

最後に、五百旗頭真研究調査本部長が「個々の実証研究はすばらしい。さらに、それらを大きな文脈にまで関連づけて論じられるようになることを期待したい」と締めくくりました。



永松 伸吾 防災科学技術研究所研究員

こうした分野横断的な研究会で活発な議論が行われるところに、様々な分野の研究員を多数擁する当機構ならではの強みが示されているといえます。今後、研究員相互の知的格闘が巨大な渦巻きとなって、当機構をますます活性化させていくことを願いつつ、当研究会を進めていきたいと考えています。この研究会は、2ヶ月に1回程度開催する予定にしています。

研究交流セミナー

日時 2007年5月15日(火) 13:15~17:00

場所 兵庫県民会館10階会議室

参加料 無料

参加申し込み 氏名・職業・住所・電話/FAX番号をご記入の上、5月11日までに FAX 078-262-5593 までお申し込みください。 TEL 078-262-5570

内容

機構の研究成果を発表し、政策形成への活用と新たな政策課題の抽出をめざして、県民の方々や行政関係者と意見交換を行う「研究交流セミナー」を開催します。

●共通テーマ「21世紀文明の課題を考える」
講師：高坂 健次（関西学院大学教授）

●研究所（部）からの研究成果の報告
テーマ：地域再生／共生社会／安全安心／多文化共生

詳しくは機構HPをご覧ください。（<http://hemri21.jp>）

能登半島地震の現地調査報告

● 被災状況

人と防災未来センター

2007年3月25日午前9時42分頃に、能登半島沖を震源とするマグニチュード6.9の地震が発生しました。北陸地方を中心に強い揺れが各地を襲い、石川県輪島市などで最大震度6強を観測するとともに、地震発生直後には津波注意報が石川県沿岸に発令されました。

人と防災未来センターでは、地震発生当日の3月25日から2日間にわたり、近藤伸也主任研究員ほか計3名の職員を派遣し、現地の被災状況と対応状況の調査を行いました。

今回の災害は、全壊583棟（4月23日現在）という建物被害の多さにかかわらず、死者が1名と少なかったのは、当日はイベント準備のため住民の多くの方が屋外に出ていたことや、雪国特有の頑丈な住家構造が地震に対しても効果があったことなどが考えられます。

また、住民の高齢化率が負傷者数の増加につながっていると推定されることから、こうした教訓が今後高齢化の進む地域での防災対策に活かされていくことを期待します。今後とも今回の災害対応等に関する調査を行い、被災地の一日も早い復興に協力していきます。



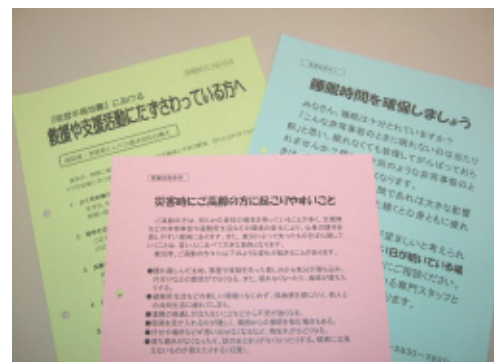
● ところのケアの取り組み

ところのケアセンター

兵庫県の能登半島地震被災地支援の一環として、被災者のところのケアや、今後の支援のための情報収集等を目的に、県立精神保健福祉センター医師、県健康福祉事務所保健師とともに、3月29日から31日にわたり輪島市を訪れました。

現地の被害は比較的狭い範囲に限られており、医療機関等もほぼ通常どおり機能していました。また、全国から多くの支援者（専門職チーム）も駆けつけており、阪神・淡路大震災を機に向上した災害に対する意識が、各都道府県の迅速な対応に繋がっているようでした。

ところのケアに関しては、被害が最も大きかった門前地区に「ところのケアチーム」の拠点が置かれ、リーフレット配布によるところのケアの啓発準備が始められていました。ところの問題は、被災直後にはあまり表面化しない



支援者及び被災者への配布リーフレット

ため、中長期にわたる支援が必要です。こうした支援は、継続対応が可能なものでなければならず、「ところのケアチーム」も今後、地元保健所の地域保健活動と連携していく体制の必要性を感じました。

また被災地のスタッフは、予想以上に疲弊しています。県内のみならず、他府県からの支援者やボランティア等の統括・調整が必要で、支援者のケアの必要性を強く感じると同時に、調整機能のシステム化は今後必須の課題となると考えます。



現地救護本部

現在も石川県に対し、中長期的なケアに関するアドバイス等の支援を継続中です。今後とも現地のニーズに沿ったタイムリーな支援で、私どもに課せられた役割を果たしていきます。

「小さな未来展2007」を開催中

3月12日から5月13日まで、「小さな未来展2007」をひと未来館3階ふれあいステージで開催しています。

昨年同時期の開催に続いて2度目となる今回は、「あしたへ向かう」をテーマにした人物写真「公募展」と、ご来館いただいた方々の未来を考えビジョンを描いていただく「ワークシートコーナー」の2本立てで実施しています。

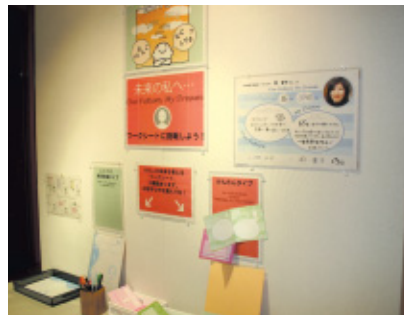
公募展では、応募作品23点を展示し、「あしたへ向かう」にふさわしい作品を来館者に選んでいただけるよう投票箱を設置。投票結果を踏まえて、5月中旬に開かれる審査会において入選作を決定し、写真展示ギャラリー「あしたへ向かって」コーナーに約2年間常設展示する予定です。

「『私の未来』ワークシートに挑戦しよう!」のコーナーには、各界で活躍中の6人が記入した「Our Future, My Dream」拡大版カードのほか、昨年度の「小さな未来展」でインタビュー取材した元テニスプレーヤー・沢松奈生子さんのパネルも展示しています。

じっくりと時間をかけて人生の設計に取り組みたい人には「わたしの未来計画」シート、気軽に何年後かの将来を考えたい人には「Our Future, My Dream」カードの2種類を設置しています。ぜひ家族と一緒に来館され、将来への思いを綴ってみませんか。



わたしの未来計画



Our Future, My Dream



思い思いに未来像を描く家族連れ

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の平成19年度事業概要

発足2年目となる平成19年度は、調査研究事業については、ニーズに応じて研究テーマ数を増やすとともに、新たに共同研究推進事業を始めるなど、総合的なシンクタンクとしての研究体制・研究内容の充実を図っていきます。

主な新規事業

◆人と防災未来センター防災未来館展示リニューアル

開設から5年が経過する防災未来館の展示について、復興への新たな課題と情報の追記、防災・減災に関する情報発信の強化等を図るため、平成20年1月のリニューアルオープンに向けて展示の更新を進めます。

◆共同研究推進事業

HAT神戸に集積する研究機関等の知的ネットワークを活用し、これらの機関等が当機構の研究方針に沿って実施する共同研究に助成を行うことにより、総合力を発揮した研究活動を展開します。

◆機構図書出版事業

機構の研究・研修活動等の成果を行政関係者や県民等に幅広く発信していくため、各研究部門で図書の出版を行います。

◆研究成果データベース構築事業

当機構の研究成果(研究論文等)を蓄積・管理するとともに、ホームページから誰でも容易に検索可能なデータベースを構築します。

◆外部評価事業

機構の設立目的を効果的かつ効率的に達成し、機構としての社会的責任を果たすため、研究調査その他の事業について自己点検評価を行うとともに、第三者評価委員会を設けて、外部評価を実施し、結果を公表します。

だれにもわかってもらえない……

大切な人をなくされた方へ

こころのケア
シリーズ

2

喪失感

愛する家族を喪った悲しみを誰が理解できるでしょうか。
周囲の人は「お気の毒に」と声をかけるかもしれません。

「がんばりなさい」と励ますかもしれません。

「もうそろそろ立ち直ってもいいはずだ」と追い立てるかもしれません。

しかし、どういわれても、自分の気持ちはわかりっこない、とあなたは思うことでしょう。死別はそれほどまでにつらいことなのです。

どんな感情も受け入れましょう

愛する家族を喪った人は
さまざまな強い感情に襲わ
れます。深い悲しみは一日
中あなたを離さないでし
よう。

「～していたらよかった」
という後悔、「なぜ助けてや
れなかったのか」「なぜ助
けてくれなかったのか」と
いう怒りもあるでしょう。大切
な人と死別した人がこうい
う気持ちを持つのは当然の
ことです。



自分と家族をいたわりましょう

死別の悲しみから立ち直るのはとても大変なことです。耐えるということが大事業なのです。気持ちを紛らわせるために仕事やお酒などにおぼれないようにしましょう。

また、一見、平気そうに見える家族の心も深く傷ついています。とくに子どもは大人のように苦しみを表現できません。家族内の交流を大切にしましょう。

感情を表現しましょう

悲しみや怒りを表現することができれば、その苦しみは少しずつ癒されていくことが知られています。平気なふうを装い、明るく見せることは、かえってあなたを苦しめるでしょう。信頼できる人に気持ちを打ち明けてみましょう。また、自分の気持ちを文章に書くことも役に立つでしょう。



こころのケアセンターは

「こころのケア」に関する専門的な相談を受けています。

- 相談日 火～土曜日
- 相談時間 9:00～12:00/13:00～17:00
- 面接は予約が必要です

TEL 078-200-3010 (代)

JICA兵庫(独立行政法人国際協力機構兵庫国際センター)

国際防災研修センター開所記念 トークショーのご案内

日時 2007年5月17日(木) 13時45分から15時まで(予定)

場所 JICA兵庫 **参加費** 無料

内容 JICA兵庫は、日本の防災の経験を学んでもらう途上国向けの研修の質と効率を高めるため、兵庫県と共同でJICA兵庫内に国際防災研修センターを開所しました。それを記念して、赤井英和氏(俳優)・兵庫県副知事・JICA理事によるトークショーを行います。

●詳細は、JICA兵庫ホームページ
<http://www.jica.go.jp/worldmap/kinki.html#hyogo>
のイベント情報欄をご覧ください。

兵庫県立美術館

開館5周年記念特別展

待望のパリ・国立ロダン美術館コレクション ロダン—創造の秘密—白と黒の新しい世界—

会期 2007年4月3日(火)～5月13日(日)

観覧料 一般1,300(1,100)円、大・高生900(700)円、中・小生500(300)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金

出品内容 パリ・国立ロダン美術館所蔵の彫刻146点(ロダンの彫刻132点、カミーユ・クローデルによるロダンの肖像彫刻1点、ロダン愛蔵の古代彫刻13点)、版画・素描18点、写真26点

○上記特別展の開館時間等

休館日：月曜日

※ただし、「ロダン—創造の秘密—白と黒の新しい世界—」については、4月30日(月・祝)は開館、5月1日(火)は休館
開館時間：午前10時～午後6時(金・土曜日は午後8時まで) 入場は閉館の30分前まで

日本赤十字社兵庫県支部

ご支援下さい。 5月は赤十字運動月間です!

日本赤十字社では、毎年5月を「赤十字運動月間」として、皆さまに赤十字の理念や活動にご賛同いただき、活動資金へご協力をいただける方を広く募集しています。活動資金に込められたあなたの思いを、赤十字はカタチにしていきます。

活動資金のご協力は郵便振替で

口座番号：01110-0-1136 口座名義：日本赤十字社兵庫県支部
資料のご請求は、お電話またはホームページで
TEL 078-241-8921(振興課)
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>



ほんのりだけ、想像力をまわしてください。

「見果てぬ夢— 日本近代画家の絶筆」展

会期 2007年5月29日(火)～7月8日(日)

観覧料 一般 1,200(1,000)円
大・高生 900(700)円
中・小生 500(300)円
()内は前売および20名以上の団体割引料金

出品内容 明治以降の国内著名画家の作品約100点
(日本画約20点、洋画約80点)

研究情報誌「21世紀ひょうご」第2号のご案内

「21世紀ひょうご」は、当機構の研究テーマや現代社会におけるさまざまな行政問題、地域課題についての研究情報誌です。第2号を好評発売中です。ぜひご購読ください。また、郵送料がお得になる定期購読者を募集しています。ご希望の方は、事務局までお申し込みください。

■第2号の内容(平成19年3月発行)



1 特集「公共」を考える

- (1) 今日の展開
 - 日本における新たな「公共」とNPO・非営利団体
 - 家族と公共性
 - 協働のまちづくりにおける「公共」
 - 多文化共生社会の実現と人間の安全保障の確立
—震災の教訓としての兵庫発21世紀の価値—
- (2) 理論的考察
 - 公共性の空間と共生配慮型の競争社会
 - 公共への着目と施策への応用
 - 安全・安心概念と公共哲学
 - 公共性の国家論と安全

2 減災シンポジウム

「21世紀の減災戦略～減災文化の構築に向けて～」

B5判 約80～100ページ(年2回発行)
定価 800円(郵送の場合は別途郵送料が必要となります。)
※定期購読をされる場合は、年間購読料1,600円
(郵送料は当機構で負担します。)

防災実務者のための学術誌「減災」第2号のご案内

人と防災未来センターでは中央省庁や各種の行政機関、ライフライン企業、研究者などの支援を得て、実践的な減災研究の学術的な価値を称揚し、同時に実務家のニーズにも応えることができるような新たなタイプの学術誌「減災」を刊行しています。ただいま第2号を全国の書店で販売しております。ぜひご購読下さい。

■第2号の内容(平成19年2月発行)

1 特集

●広域災害にどう備えるか

首都直下地震、東海・東南海・南海地震など、被害が広域にわたる災害への対応が緊急の課題となっています。都市型災害、中山間地での被災に加え津波や台風による災害など、多様で複合的な広域災害に伴う問題の解決に向けた実践的な研究・提言を掲載しています。

2 カラーグラフ

- 首都直下地震の被害想定
- ハリケーン・カトリーナによる被害

3 コラム

- 減災への取り組み事例
- 民間団体活動紹介
- 2006災害年報



A4判 180ページ
定価 2,800円
出版社 株式会社 山海堂
TEL: 03-3816-1617
FAX: 03-3816-1619

考える つくる 伝える
コミュニケーション・ファクトリー
SHOKO PRINTING CO., LTD
企画デザインから印刷まで、トータルコミュニケーションでお応えします。

商工印刷株式会社

会長 加藤宏治
代表取締役 藤井五郎

本社/
神戸市中央区琴ノ緒町4丁目5-7 〒651-0094
TEL (078) 221-1113 FAX (078) 241-0018
大阪営業所/
大阪市北区兔野町3-15北邑ビル3F 〒530-0056
TEL (06) 6312-0123 FAX (06) 6312-8595
東京営業所/
東京都港区芝浦4丁目2-22 東京ベイビュー814 〒108-0023
TEL (03) 5765-7061 FAX (03) 5765-7067

<http://www.shoko-dw.com/>



Vol.3

2007年4月発行

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター ひと未来館6階)
URL <http://www.hemri21.jp>

●事務局	TEL.078-262-5585	FAX.078-262-5587
●研究調査本部	TEL.078-262-5570	FAX.078-262-5593
●人と防災未来センター	TEL.078-262-5050	FAX.078-262-5055
●学術交流本部 (〒650-0021 神戸市中央区三宮町1-10-1 神戸交通センタービル4階)	TEL.078-327-4380	FAX.078-392-0071
●こころのケアセンター (〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2)	TEL.078-200-3010	FAX.078-200-3017